豊岡市大交流ビジョン（案）

小さな世界都市の実現に向けて

平成 31 年 3 月

目次

1　大交流ビジョンについて 2

2　大交流ビジョンの概要 3

(1)　観光に関するマクロ環境（世界情勢・日本情勢） 3

(2)　豊岡市の観光動態と観光産業の位置づけ 3

(3)　大交流の推進戦略 3

(4)　大交流ビジョンの目標数値 3

(5)　大交流ビジョンの実現に向けて 3

3　観光に関するマクロ環境（世界情勢・国内情勢） 4

(1)　世界の観光情勢 4

(2)　訪日外国人旅行者の情勢 5

(3)　日本人の国内旅行者の情勢 7

4　豊岡市の動態と観光産業の位置づけ 8

(1)　豊岡市の人口推移 8

(2)　豊岡市の観光推移 9

(3)　豊岡市の観光産業 11

5　大交流の推進戦略 12

(1)　目指すべき姿 12

(2)　大交流推進のための課題と対応策 13

(3)　大交流推進のための取り組み方針と大交流モデル 15

(4)　「観光権」的な考え方について 16

6　大交流ビジョンの目標数値 17

(1)　大目標（KGI）と中目標（KPI） 17

(2)　目標数値の設定 18

7　大交流ビジョンの実現に向けて 23

(1)　推進体制 23

(2)　組織連携の推進 24

(3)　人材の確保・育成 24

(4)　観光振興財源 24

(5)　大交流ビジョンの進め方 27

(6)　大交流ビジョン策定委員会 28

1　大交流ビジョンについて

私たちは、“観光”を“交流”と捉え直しました。

“観光”は“交流”や“対話”を生み出します。

豊岡の歴史や風土などに根ざした環境や文化、ライフスタイルなど「豊岡のローカル」を核として、豊岡を訪れる人たちと豊岡のまちや人々、豊岡を訪れる人同士、さらには、豊岡の市民同士の交流や対話が生まれます。

こうしたことが、豊岡の市民や外部の人たちの「豊岡のローカル」に対する憧れや共感へと繋がり、さらにコミュニケーションが広がっていく状態を “大交流”と定義します。

大交流ビジョンでは、市民や外部の人たちを惹きつける豊岡のローカルに新しい価値や工夫を加え、「ここにしかないもの」に大きく育て膨らませていき、さらなる大交流を実現するための基本的な考え方をまとめています。

大交流を通じた「小さな世界都市 ― Local & Global City ―」を実現するための指針として大交流ビジョンを策定しました。

２　大交流ビジョンの概要

(1)観光に関するマクロ環境（世界情勢・日本情勢）

- 観光市場は世界的に成長しており、中間層拡大により今後も成長が期待されている。
- 観光客の消費は、経済の活性化に結びつき、地域を元気にします。
- 訪日外国人旅行者も増えており、国は 2030 年には 6000 万人とする目標と定めている。
- 日本人による国内旅行は大きく成長していないが、消費される経済規模は依然大きい。

(2)　豊岡市の観光動態と観光産業の位置づけ

- 豊岡市の観光産業は、最も外貨を稼ぐ産業であるため基盤産業として位置付けている。
- 地域経済の活性化のためには、観光産業の成長が必要だが、以下の課題がある。
- 国内旅行は、関西圏からの来訪が集中している状態のままでは持続的な成長が困難となる。
- 訪日外国人の宿泊者数は、近年、増加傾向が鈍化している。
- 消費単価が安く滞在日数が短いなどの改善の余地がある。
- カニシーズンや夏休みといった繁忙期と春や秋の閑散期との差が大きい。

(3)　大交流の推進戦略

- 大交流ビジョンでは、観光に関わる主体を豊岡市民と豊岡を訪れる多様な訪問者、また、豊岡の幅広い産業とし、観光の核となるものを豊岡のモノや食の消費から、豊岡のローカルへの憧れや共感へと大きく捉え直すこととした。
- ６つの取り組み方針に基づき大交流を推進する。
  ① 豊岡にしかない価値や豊岡でしか経験できないローカルを磨く
  ② 成長市場であるインバウンドの宿泊誘客を重点的に取り組む
  ③ 国内旅行は、縮小する関西圏市場への依存から脱却し、新規市場を開拓する
  ④ 観光需要の平準化を図り、年間を通じた安定的な雇用を創出する
  ⑤ 人材の育成を図るとともに、待遇改善や働き方改革により人材を確保する
  ⑥ 地消地産を進め、地域内調達率を高めることにより、市内の経済循環を促進する

(4)　大交流ビジョンの目標数値

- 大目標（KGI）
  • 世界からの尊敬度合を評価するために、NPS（ネットプロモータスコア）で測定する。
  • イノベーションが起きている状態を観光による地域経済への波及効果総額で測定する。
- 中目標（KPI）
  国内延べ宿泊者数は現状を維持しつつ、訪日外国人延べ宿泊者数の増加と消費額単価の向上を図る。

(5)　大交流ビジョンの実現に向けて

- 豊岡観光イノベーション（TTI）を中心に市民や幅広い産業、関係団体と相互に連携しながら推進体制を作り上げ、豊岡のローカルの価値の創造、提供、向上に取り組む。
- 県立の専門職大学と連携して人材の育成・確保を図る。
- 2019 年度に具体的な施策や事業を定めたアクションプランを策定するとともに、観光振興財源のあり方について検討を行う。

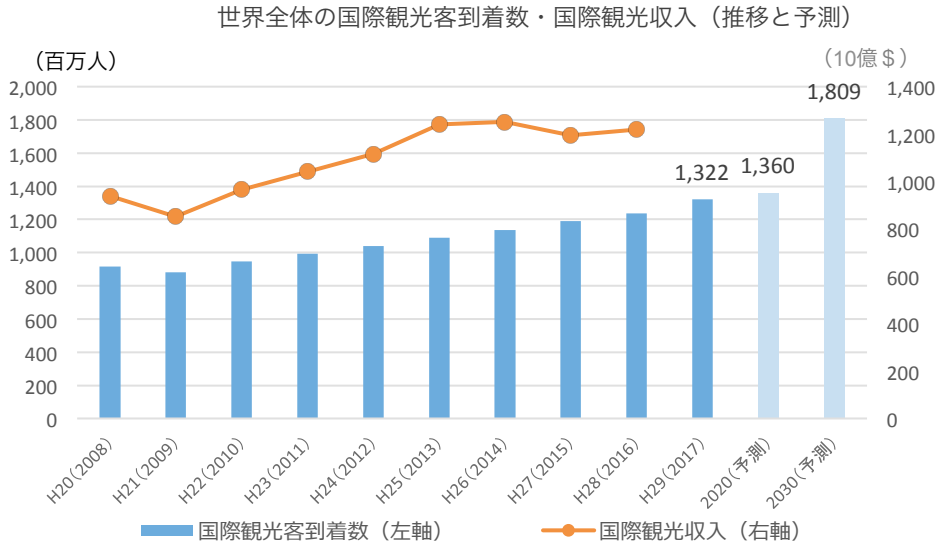
３　観光に関するマクロ環境（世界情勢・国内情勢）

(1)　世界の観光情勢

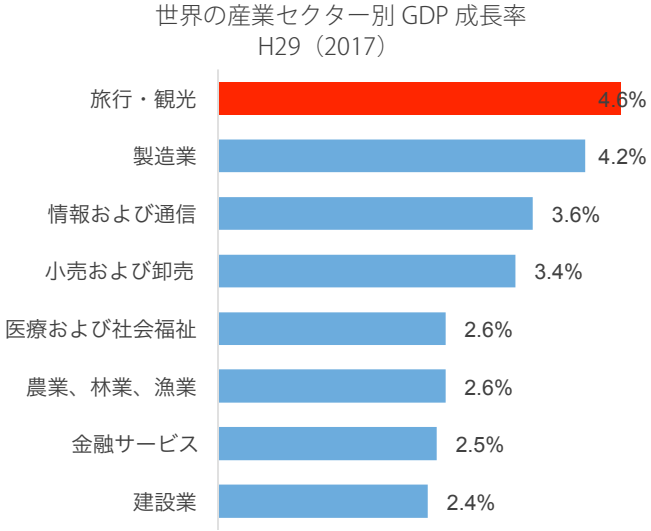
2017 年の世界の海外旅行者数（国際観光客到着数）は前年より 8,300 万人増え 13.2 億人を記録しました。2009 年のリーマンショック以降、国際観光収入とともに増加傾向にあります。また、2030 年には、18.1 億人まで増えることが予測されています。

国際観光客数の地域別シェアは、欧州の占める比率が高く、依然として大きなマーケットですが、近年、アジア太平洋地域が大幅な成長傾向にあり、注目されています。

また、旅行・観光産業は、2017 年において最も成長率の高い産業セクターであり、世界的に見て、観光による経済成長が期待されています。



出典：世界観光機関（UNWTO）の資料に基づき（公社）日本観光振興協会が作成　2017 年 7 月時点



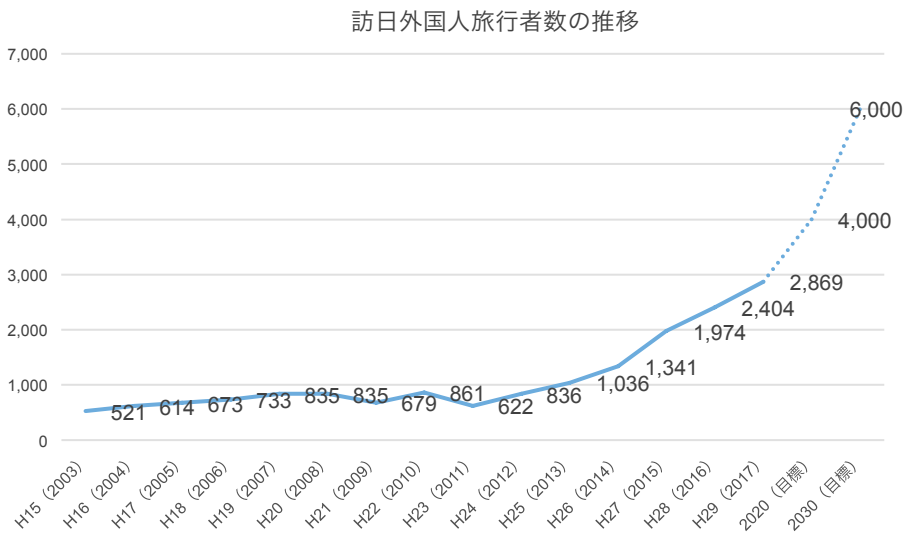
出典：世界旅行ツーリズム協議会（WTTC）調査

(2)　訪日外国人旅行者の情勢

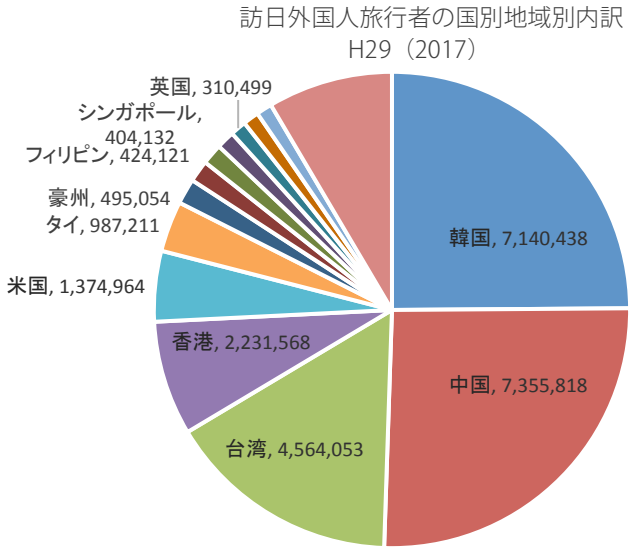
世界的な観光市場の成長により、訪日外国人旅行者が増えてきました。2017 年の訪日外国人旅行者数は前年比 19.3%増の 2,869 万人となりました。また、2018 年の速報値では、前年比 8.7%増の 3,119 万人となっています。

訪日外国人旅行者の国別地域別の内訳を見ると韓国、中国、台湾、香港など東アジアからの訪日客が 74.2%を占めています。

国は、訪日外国人旅行者数の目標値を 2020 年に 4,000 万人、2030 年には 6,000 万人と設定しています。



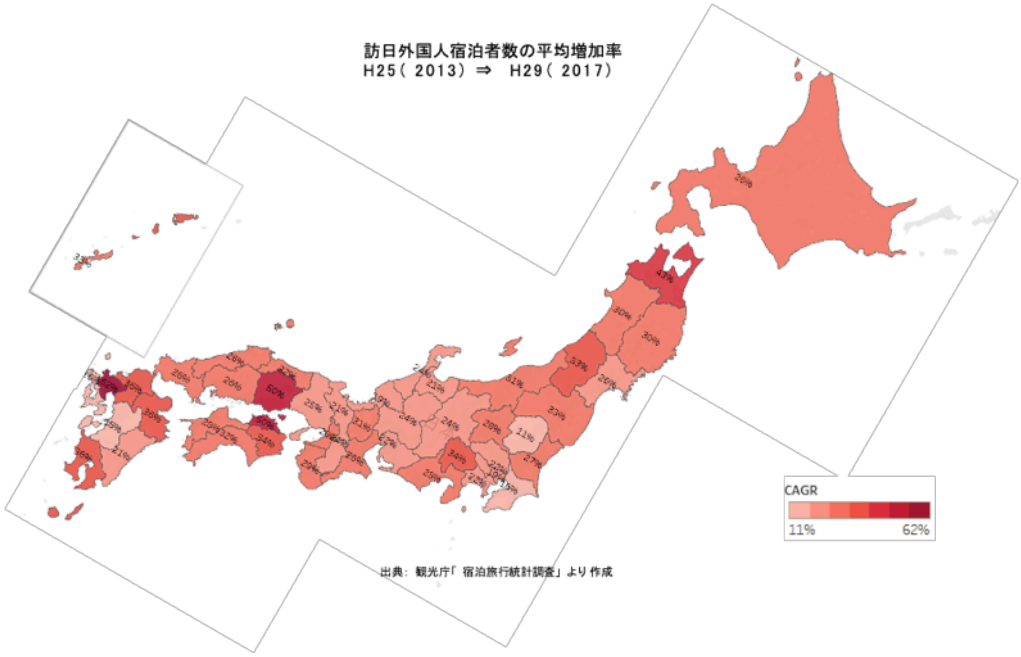
出典：日本政府観光局（JNTO）



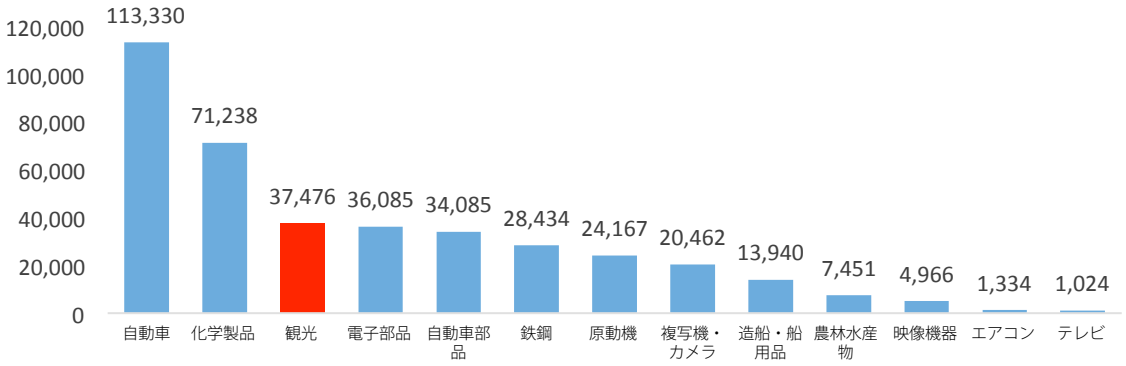
出典：日本政府観光局（JNTO）

これまで、訪日外国人旅行者の訪問先は、東京・箱根・富士山・名古屋・京都・大阪といったいわゆる「ゴールデンルート」に集中していましたが、近年、その他の地域の増加率が高くなっていることから、訪日外国人旅行者が地方にも広がりつつあることがわかります。

訪日外国人旅行者が消費する金額は、日本に大きな経済効果をもたらします。2016 年の消費額は、自動車、化学製品に次ぐ規模であり、外貨を稼ぐ主要産業に位置づけられています。



H28（2016）訪日外国人旅行消費額と製品別輸出額との比較

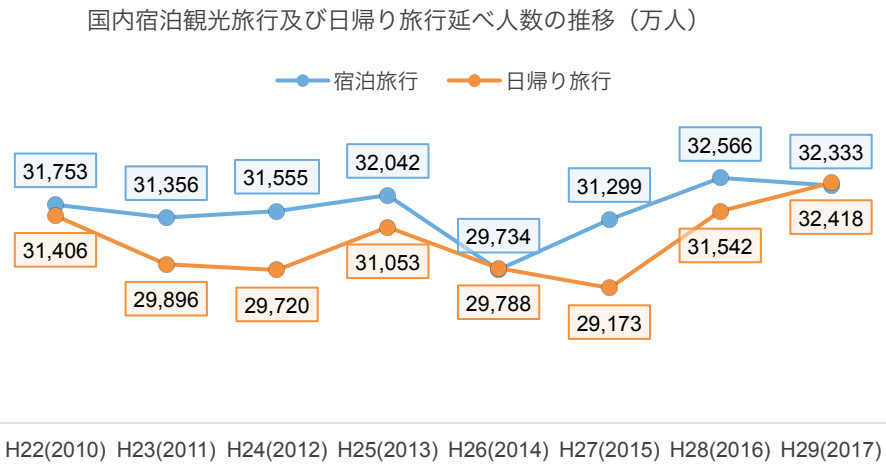


出典：観光庁
※観光、造船・舶用品、農林水産物以外の各製品の金額は貿易統計（財務省）確報より算出。
※造船・舶用品、農林水産物以外の金額は 2016 年の数値。
※造船・舶用品の金額は 2014 年の確報値で、海事局データより算出。
※農林水産物の金額は農林水産省公表値で、2015 年の確報値。
※映像機器にはテレビの輸出額を含む。
※カッコ内に記載の品名は、貿易統計における品名を示す。

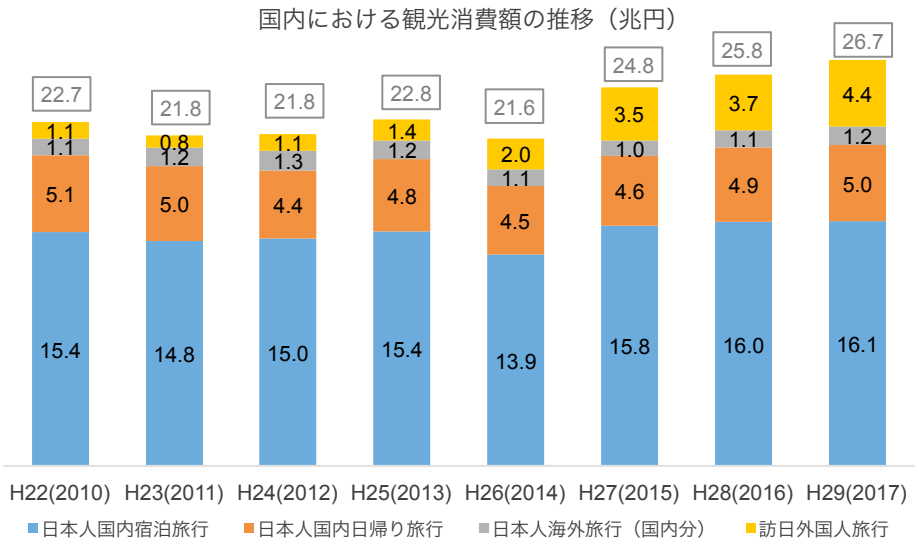
(3)　日本人の国内旅行者の情勢

日本人による国内観光需要は、最近 10 年は横ばいで推移しています。2017 年には、国民 1 人当たりの国内宿泊観光旅行の回数は 1.4 回、宿泊数は 2.3 泊となっています。

国内旅行者による観光消費額は、国内観光需要の傾向と同様に横ばいですが、消費総額は依然 20 兆円を上回る非常に大きな市場です。ちなみに、2017 年の訪日外国人旅行消費額は、前年比 17.8%増の 4.4 兆を記録し過去最高となっています。



出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」



出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」

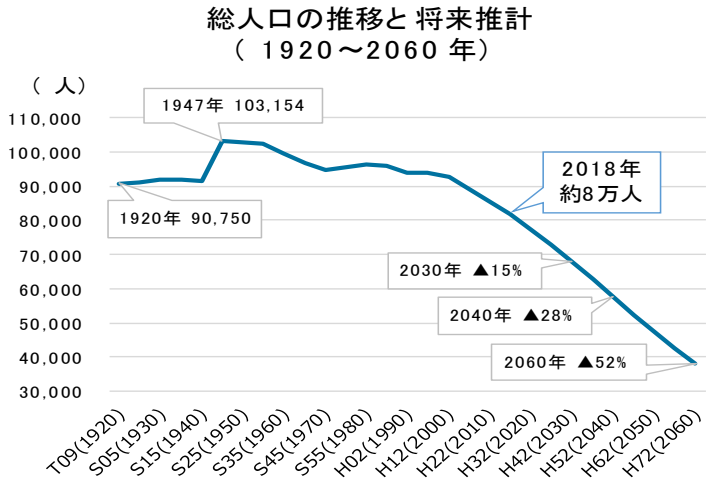
４　豊岡市の動態と観光産業の位置づけ

(1)　豊岡市の人口推移

豊岡市の総人口は、1947 年に 10.3 万人をピークにその後は緩やかに減少しています。2000 年より人口減少のペースは加速し、2030 年には 6.8 万人、2060 年には 3.8 万人にまで減少すると推計しています。

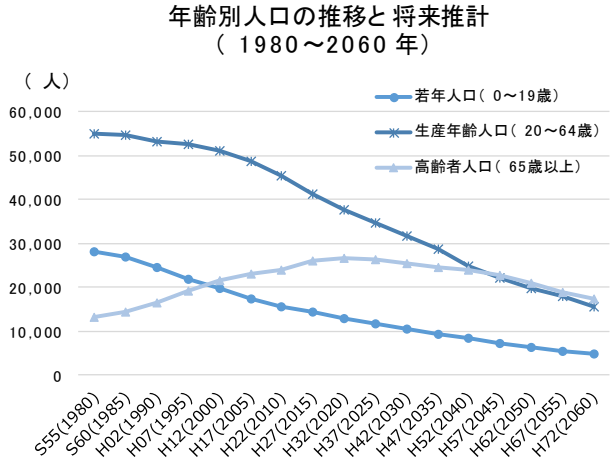
1995～2000 年の間に、高齢者人口が若年人口を上回りました。そして 2040～2045 年の間に、高齢者人口が生産年齢人口も上回ると推計されます。ただし、高齢者人口も 2020 年をピークに減少傾向となる見込みです。

つまり、豊岡市では人口が減少し、生産年齢人口の比率が低下するため、地域が生み出す力が弱まっていくことが予想されます。そのため、地域経済活性化への対策が必要となります。



※パーセント の値は2018 年7 月時点の値（ 79,607 人）と 対 比し た 減少率

出典：1920～2010 年は総務省統計局「 国勢調査」、2015 年以降は内閣官房まち・ ひと・ しごと
創生本部事務局提供人口推計ワーク シート（ CD-ROM）により 作成し た本 市基準 推計



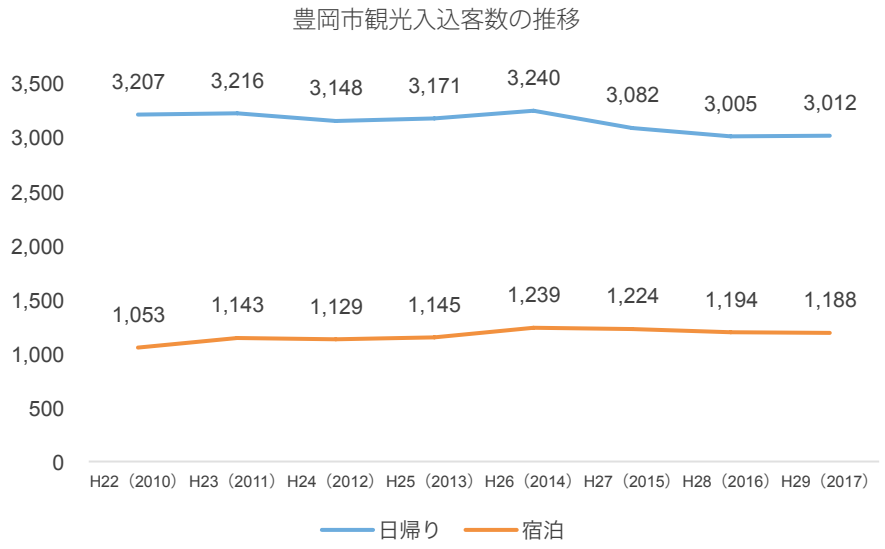
出典：1980～2010 年は総務省統計局「 国勢調査」、2015 年以降は内閣官房まち・ ひと・ しごと
創生本部事務局提供人口推計ワーク シート（ CD-ROM）により 作成し た本 市基準 推計

(2)　豊岡市の観光推移

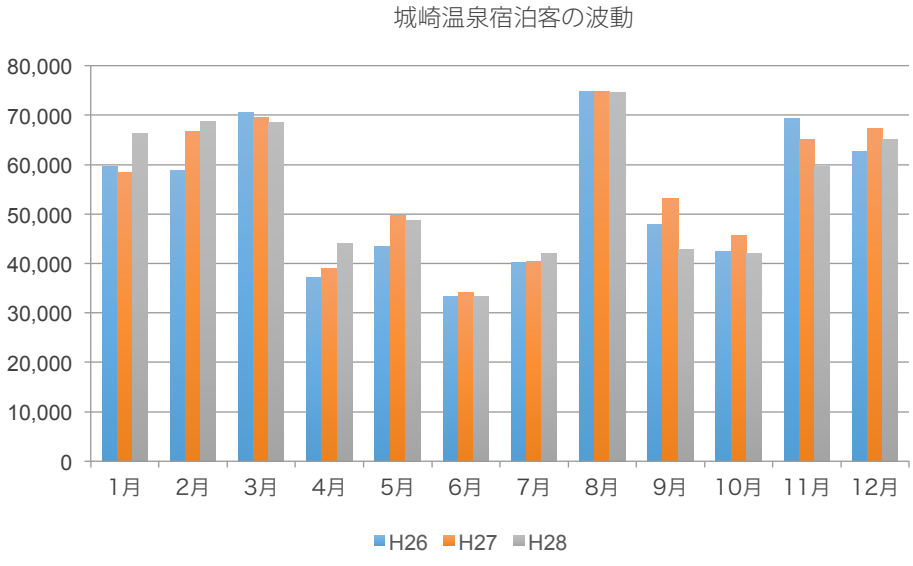
①国内旅行市場の状況

豊岡市の観光産業の多くは日本人による国内旅行に支えられています。日本全体は横ばい傾向ですが、豊岡市の観光入込客数は日帰り客が微減傾向で宿泊客は微増傾向にあります。

豊岡市への来訪者は、関西圏からの来訪が約 8 割を占め、そのうち、京都府、大阪府、兵庫県で約 96%を占めています。また、年間を通して繁忙期と閑散期の差が大きいことも特徴のひとつです。

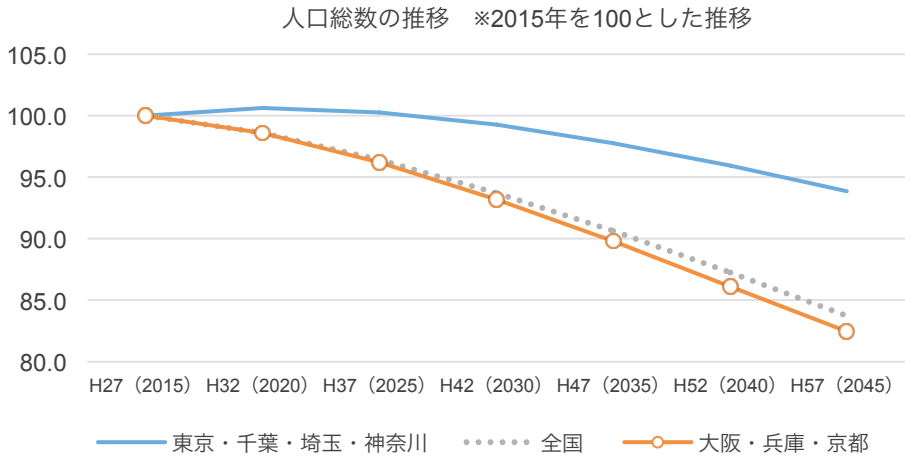


出典：兵庫県「観光客動態調査」に基づく豊岡市調べ



出典：豊岡市大交流課調べ

豊岡市最大のマーケットである関西圏（京都府、大阪府、兵庫県）の人口総数は、首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）と比較すると大きく減少する見込みです。そのため、関西圏からの来訪者に偏ったままだと、豊岡市の観光産業の持続的な成長が難しくなることが予想されます。



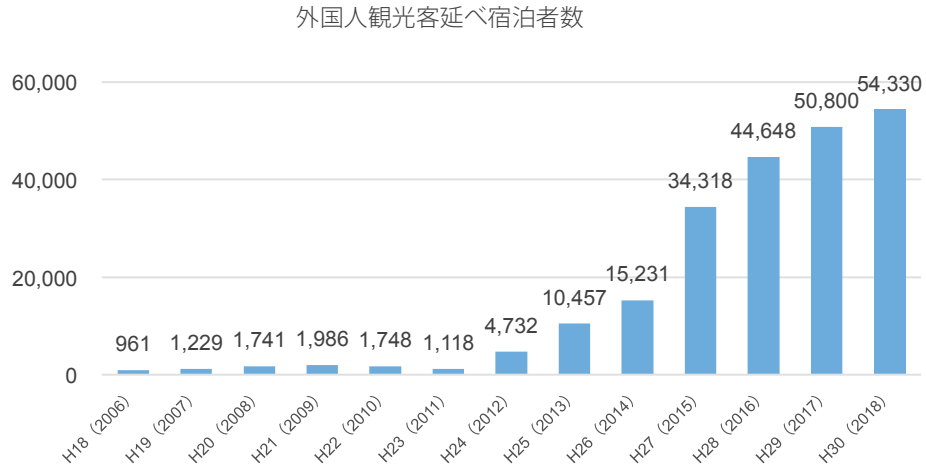
出典：国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』より作成

②外国人旅行市場の状況

豊岡市の訪日外国人旅行者の延べ宿泊者数は、2012 年以降急速に伸びており、全国と比べてアジアの比率が低く、欧米豪の占める割合が高い傾向が見られます。

しかし、近年は伸びが鈍化傾向にあり、東アジアでその傾向が顕著です。

豊岡市を訪れた外国人旅行者のアンケートからは、城崎温泉（豊岡市に宿泊する外国人旅行者の約９割が城崎温泉に宿泊している）での平均宿泊日数は 1.3 泊と非常に短いことがわかっています。



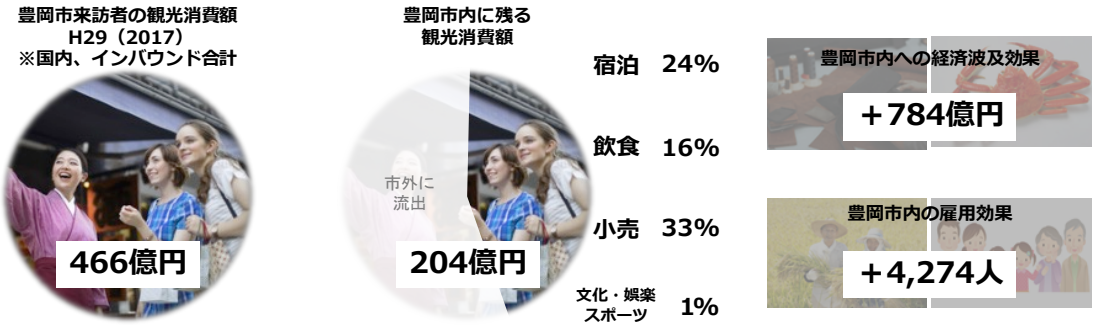
出典：豊岡市大交流課調べ

(3)　豊岡市の観光産業

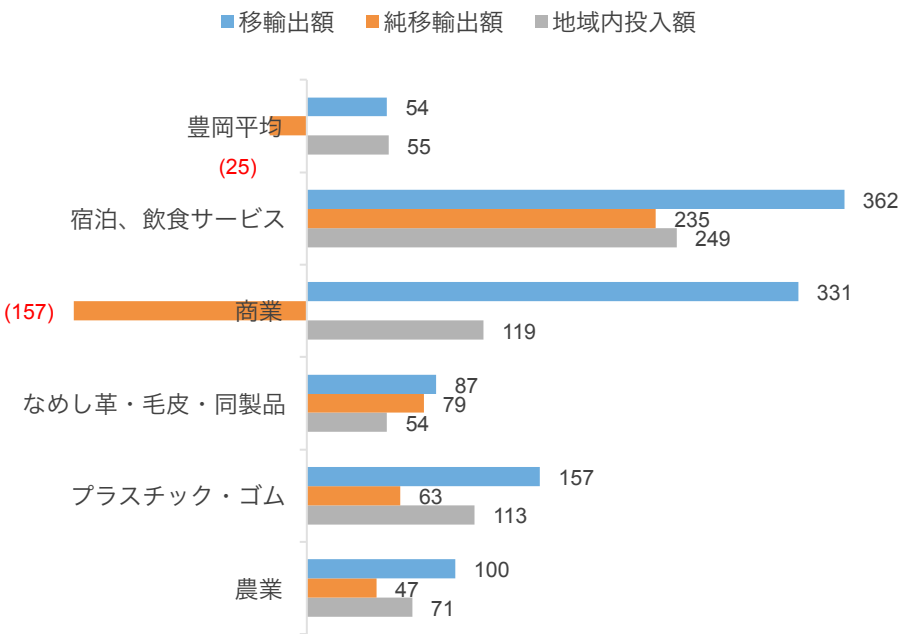
2017 年度の豊岡市への来訪者数は 349 万人、観光消費額は 466 億円、そのうち、地域内に残る金額は 204 億円と推計しています。

これらの観光による消費は、市内の幅広い産業に経済効果を及ぼしており、その波及効果は 784 億円、4,274 人の雇用を創出していると推計しています。

豊岡市の観光産業は、他の産業と比較して移輸出額が 362 億円と最も多いうえに、地域内投入額も 249 億円と最も多く、市外から最も多く外貨を稼ぎ地域内に還流させて地域活性化を促す基盤産業となっています。



出典：株式会社三菱総合研究所の調査結果より作成



※ 移輸出額＝豊岡市内産業が国内他地域及び国外（外部）に販売した額
※ 純移輸出額＝豊岡市内産業が外部に販売した額－外部から購入した費用
※ 地域内投入額＝地域内産業からの調達額

出典：豊岡市産業連関表（H23 年度）より作成

５　大交流の推進戦略

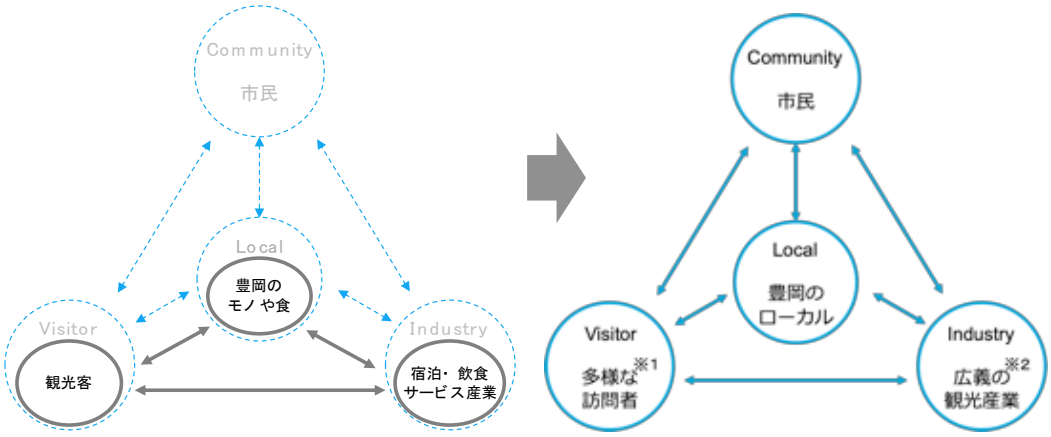
(1)　目指すべき姿

かつての観光は、物見遊山的で、観光客と一部の宿泊・飲食サービス事業者だけのものとして狭く捉えられていました。とりわけ、市民自身が市内の観光を楽しんだり、市民の日常こそが観光資源になりうること、観光の振興が市民生活の豊かさの向上につながることなど、市民という視点が弱かったように思います。

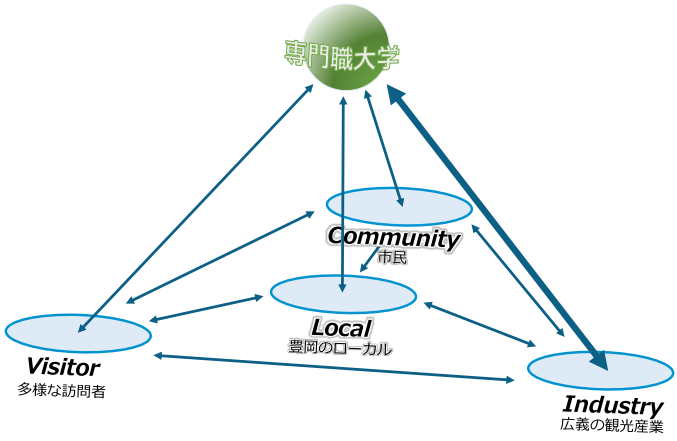
このため大交流ビジョンでは、観光に関わる主体を豊岡市民、豊岡を訪れる多様な訪問者、豊岡の幅広い産業とし、観光の核となるものを豊岡のモノや食の消費から、豊岡のローカルへの憧れや共感へと大きく捉え直すこととしました。

市民（Community）と多様な訪問者（Visitor）、広義の観光産業（Industry）が豊岡のローカル（Local）を核に相互に関わることで様々なポジティブな反応が生み出されます。こうした相互作用により地域に新しい価値が加わるサイクルが拡大することによって、地域全体に大交流を通じて地域にイノベーションが起きている状態を目指します。

従来の「観光」の捉え方　　**新たな「観光」の捉え方**



また、2021 年に開学予定の県立専門職大学は、文化（芸術）と観光の親和性に着目したコース設定が想定されており、大交流モデルの新たなステークホルダーとしての役割を果たすことが期待されています。



(2)　大交流推進のための課題と対応策

「小さな世界都市 ― Local & Global City ―」の実現に向けて観光の面から貢献するため、大交流を通じて豊岡にイノベーションが起きている状態を目指します。

このためには、大交流の主体者である市民、産業、来訪者が相互に作用し「豊岡固有のモノやコトの価値に新しい工夫が加わり、相互につながり、活用されている」状態を達成することが必要です。

＜目指すべき状態＞

- 市民（Community）の状態
  市民が豊岡のローカルに誇りを持ち、市民同士の交流が盛んにおこなわれ、暮らしを楽しみ、豊かになっている
- 産業（Industry）の状態
  市内の幅広い産業が豊岡のローカルを活用した商品やサービスを世界に提供している
- 来訪者（Visitor）の状態
  観光客のみならず、世界が豊岡のローカルに憧れ共感し、訪れたり暮らしたりしている

＜解決すべき課題＞

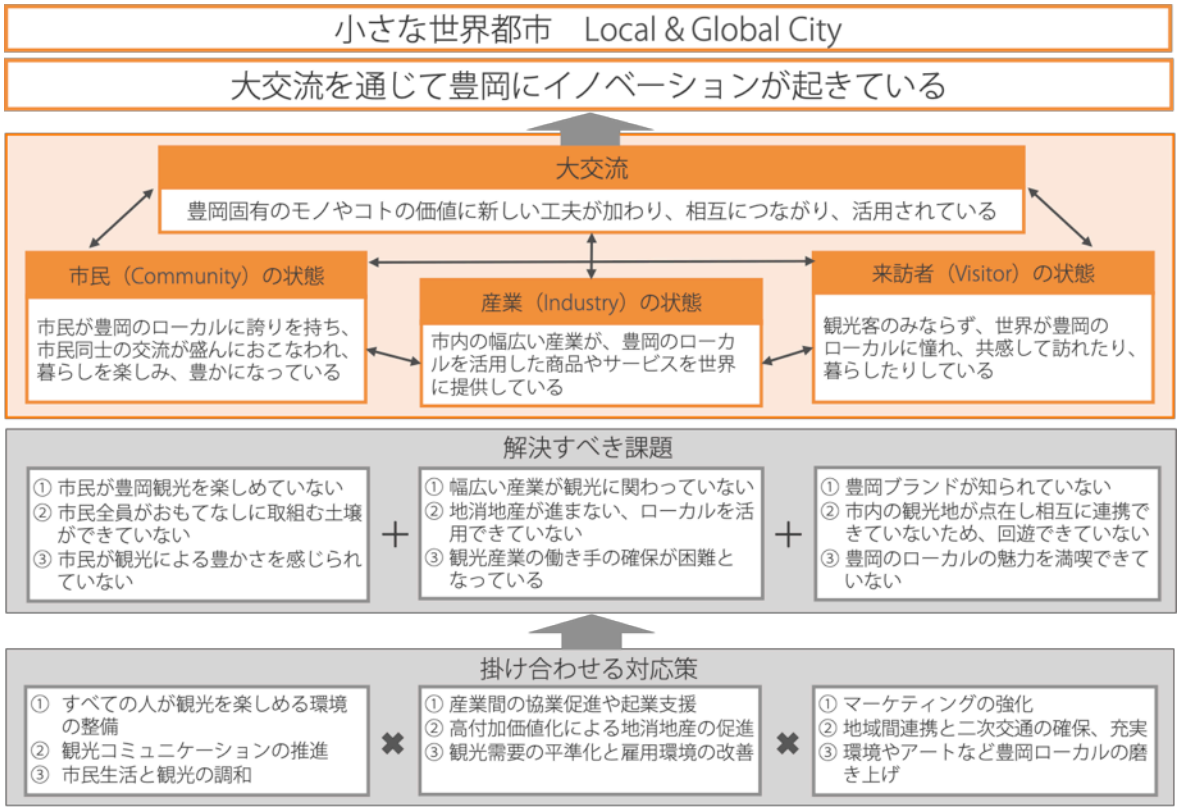
- 市民（Community）の課題
  ① 市民が観光を楽しんでいない
  ② 市民全員で来訪者を迎え入れる土壌ができていない
  ③ 市民が観光による豊かさを感じられていない
- 産業（Industry）の課題
  ① 幅広い産業が観光に関わっていない
  ② 地消地産が進んでいない（豊岡のローカルを活用できていない）
  ③ 観光産業の働き手の確保が困難になっていきている
- 来訪者（Visitor）の課題
  ① 豊岡ブランドが知られていない
  ② 市内の観光地が点在しており回遊できていない
  ③ 豊岡のローカルを満喫できていない

＜課題解決のための対応策＞

- 市民（Community）への対応策
  ① 全ての人が観光を楽しめる環境づくり
  ② 観光コミュニケーションの推進
  ③ 市民生活の向上と観光振興の調和
- 産業（Industry）の対応策
  ① 産業間の協業や起業支援
  ② 生産者と観光事業者の連携や高付加価値化
  ③ 観光需要の平準化と雇用環境の改善

- 来訪者（Visitor）の対応策
  - ① 観光地マーケティングの強化
  - ② 地域間連携と二次交通の確保・充実
  - ③ ここにしかない豊岡体験の発見と提供

大交流ビジョンの全体像



(3)　大交流推進のための取り組み方針と大交流モデル

取り組み方針

① 豊岡にしかない価値や豊岡でしか経験できないローカルを磨く
② 成長市場であるインバウンドの宿泊誘客を重点的に取り組む
（宿泊客数の増加、延泊の促進、消費額単価の拡大）
③ 国内旅行では、縮小する関西圏市場への依存から脱却し、新規市場を開拓する
④ 観光需要の平準化を図り、年間を通じた安定的な雇用を創出する
⑤ 専門職大学との連携により人材の育成を図るとともに、待遇改善や働き方改革により人材を確保する
⑥ 地消地産を進め、地域内調達率を高めることにより、市内の経済循環を促進する

大交流モデル

(4)　「観光権」的な考え方について

策定委員会の議論の中で、「観光権」という新しい概念の提案がありました。

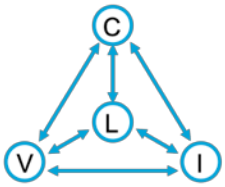
「観光権」という法的な定義はありませんが、「すべての豊岡市民は観光を楽しむ権利(観光を通じて異なる文化、異なる価値観に触れ、自らを内省する時間を持つ権利)を有する。」、また「すべての豊岡市民は、観光振興による利益（経済的な利益のみならず、観光振興によって高まったまちの魅力や生活の豊かさや質）を享受する権利を有する。」という概念です。

それらを行使しやすい環境を整えることにより、市民の市内観光が促進され、市民自身が豊岡の魅力を体感し、観光振興が市民生活の豊かさの向上につながることを実感することが、大交流ビジョンの実現には必要であるという考え方です。

大交流ビジョンでは、「観光権」を明確に位置付けていませんが、その考え方を根底に置きながら策定しています。

位置付けや具体的な施策につきましては、今後も引き続き議論していく必要があると考えています。

市民の市内観光の推進



＜豊岡のローカル＞
市民が知らない豊岡のローカル
＜期待される効果＞
C:豊岡の良さやローカルの再発見
V:観光の自分ごと化
I:市民目線での評価や相互送客の促進

＜具体的な取組例＞
・市民の市内観光を支援する仕組みの検討
・観光従事者が市内他地域の観光地を学ぶ機会の設定
・季節や観光地ごとの労働力のシェアの促進
・「観光権」的な考え方の導入

６　大交流ビジョンの目標数値

(1)　大目標（KGI）と中目標（KPI）

大交流モデルを着実に推進していくために、２つの大目標（KGI）と７つの中目標（KPI）を設定し、進捗を管理します。

大目標（KGI）の１つは、世界からの尊敬度合いを評価するために、豊岡市をどのくらい推奨したいかを測る指標である NPS（ネットプロモータスコア）を採用し、もう１つは、イノベーションが起きている状態を経済的な指標で測定するために、観光産業による地域経済への波及効果総額を用います。

中目標（KPI）とは、来訪者、産業、市民の視点でそれぞれ状態の達成度合いを測定するもので、中目標（KPI）を達成することが最終的には大目標（KGI）の達成に結びつきます。

大目標（KGI）に必要な要素
- ✓　世界からの尊敬度合いを評価できる指標
- ✓　イノベーションの度合いを評価できる経済的な指標

施策体系と目標数値の関係性

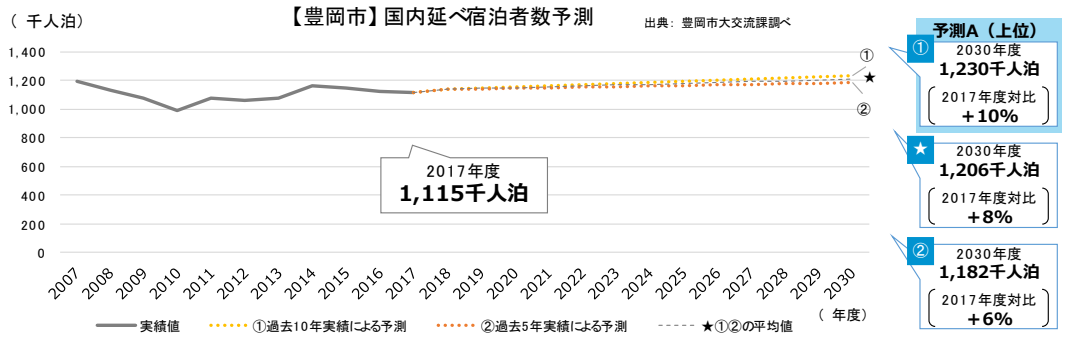
(2)　目標数値の設定

① 国内宿泊旅行者数の予測

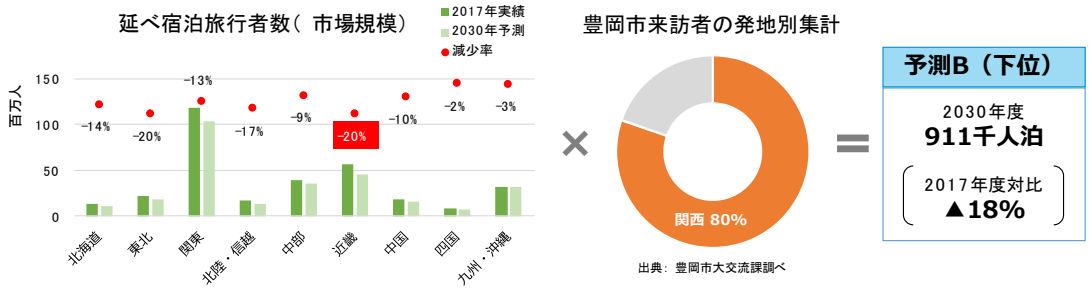
国内宿泊旅行者数のトレンドによる 2030 年度の将来予測を行いました。

2010 年度を底に 2014 年度まで上昇しており、中長期的には微増傾向と言えます。過去 10 年の実績による予測では 2017 年度と比較して 10%の増加、過去 5 年の実績からは 6%の増加を予測しています。

一方、性・年齢/地域別の旅行回数や地域別の延べ宿泊旅行者数（市場規模）をもとに推計すると、前述の通り、豊岡市への来訪者は 8 割が関西圏であることを踏まえると、現状の発地別割合のままでは大幅な減少（▲18%）が予測されます。こうした大幅な減少を回避し関西市場に偏重した状態から脱却するには、首都圏などの新たな有望市場からの誘客を強化する必要があると言えます。



出典：豊岡市大交流課調べ



出典：豊岡市大交流課調べ

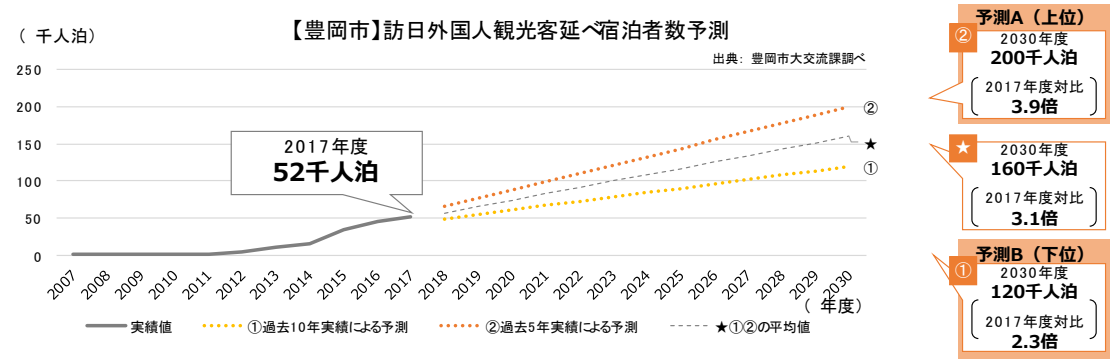
② 外国人宿泊旅行者数の予測

訪日外国人旅行者の延べ宿泊者数についてトレンド予測を行いました。

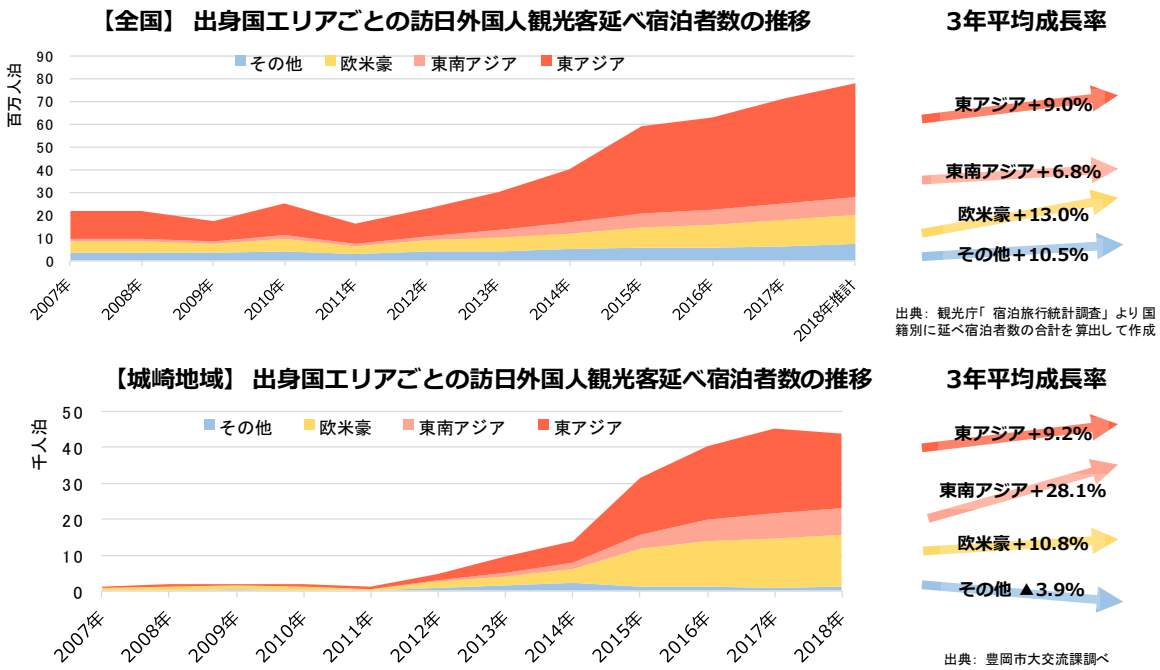
豊岡市の外国人旅行者延べ宿泊者数は長期的に増加傾向にあります。2014 年から 2015 年に急上昇している点も考慮すると、2030 年度には 2.3 倍の 12 万人泊から 3.9 倍の 20 万人泊と予測しています。

豊岡市の外国人旅行者に関しては、もともと欧米豪のシェアが高く、誘客策もこれらの地域に注力してきました。しかし、豊岡市の欧米豪の平均成長率 10.8%は、日本全体の 13.0%と比べると伸びが弱い状況です。

また、訪日外国人の絶対数の多い東アジアからの旅行者が減少していることから、欧米豪のほか、東アジアや東南アジアからの誘客にも注力することによって、外国人観光客の宿泊者数を増やす余地があると言えます。



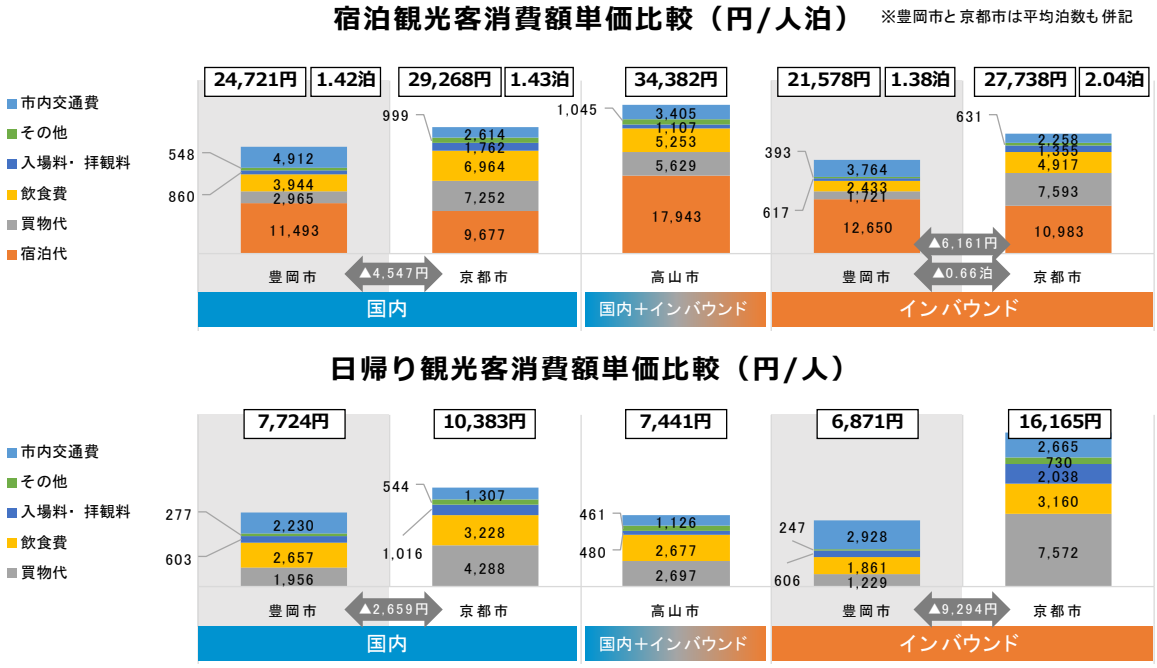
出典：豊岡市大交流課調べ



出典：豊岡市大交流課調べ

③ 観光消費額単価

豊岡市が取り組みの参考にしている京都市、高山市と比較すると、豊岡市の平均消費額単価は低い状況です。特に、買物代や飲食費の差が大きく、豊岡市にはまだ単価を上げる余地があると考えられます。

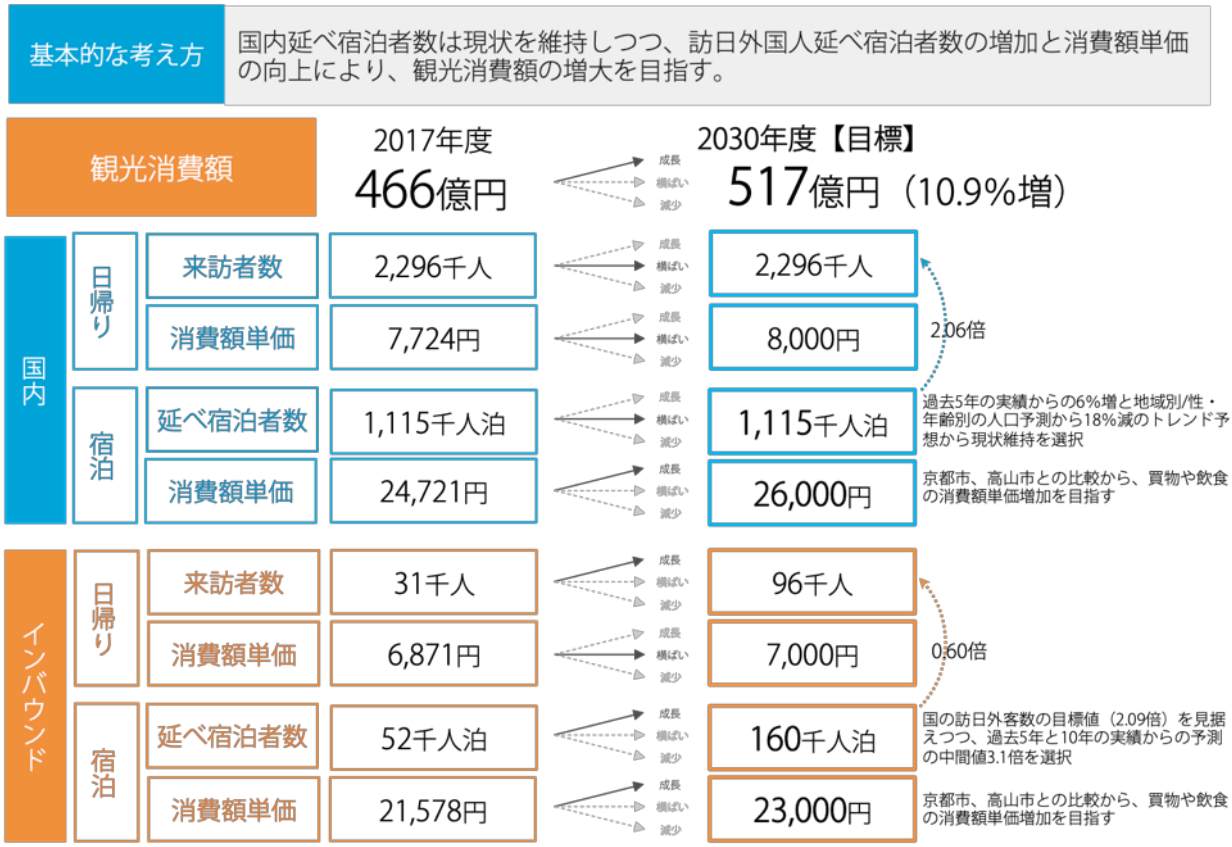


出典：京都市「京都観光総合調査（2017年）」より作成。京都市の単価は実人数ベースで算出されているため、平均宿泊日数で割ることで一人1泊あたりの平均単価に換算。
出典：高山市「観光統計（2017年）」「観光の経済波及効果推計実施報告書（2017年）」より作成。

④ 目標数値の設定

＜中目標（KPI）＞

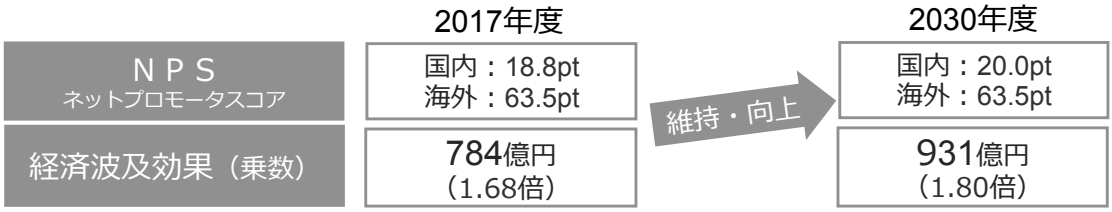
豊岡市の観光消費額目標（KPI）設定に関する基本的な考え方は、国内延べ宿泊者数は現状を維持しつつ、訪日外国人延べ宿泊者数の増加と消費額単価の向上を図ることとし、2030 年度に 517 億円（2017 年度比 10.9%増）の観光消費額を目指します。



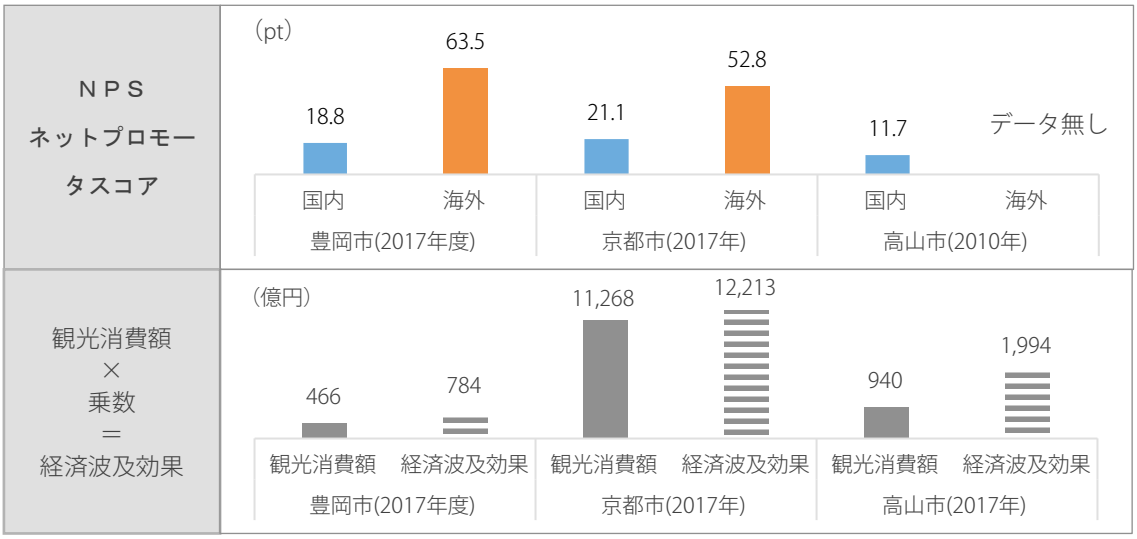
＜大目標（KGI）＞

NPS は比較的高い値となっています。豊岡のローカルをより深く提供することにより、国内観光客の NPS を 20.0 ポイントに引き上げ、訪日外国人旅行者の NPS は 63.5 ポイントを維持することを目指します。

また、経済指標については、観光消費額目標（KPI）に基づく 517 億円の観光消費額を達成すると同時に、原材料の地域内調達や地域内雇用、地域内消費を促進することとにより、2030 年度に 931 億円の経済波及効果を目指します。



（参考）他の観光地との比較



出典：京都市「京都観光総合調査（2017 年）」より作成。高山市「 観光統計（2017 年）」「観光の経済波及効果推計実施報告書（2017 年）」観光庁「観光客満足度調査　地域別集計結果（2010 年）」より作成。

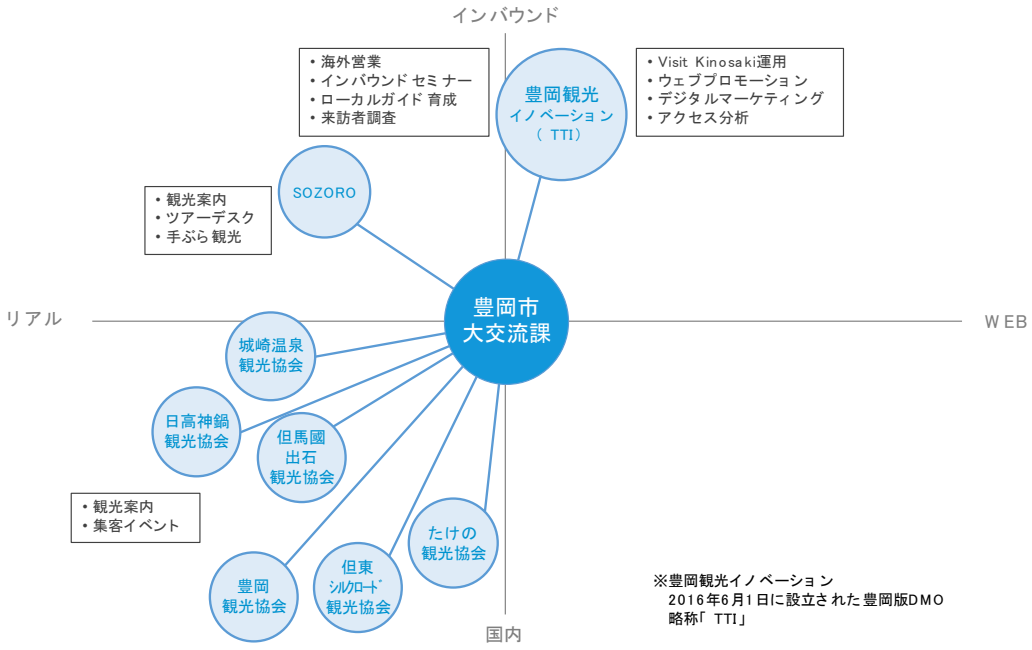
※１：京都市及び高山市の NPS の計算には、７段階の照会意向アンケートを基に、「７（最高値）＝推奨者、１～５＝批判者」として算出。

※２：経済産業省「観光経済波及効果簡易推計システム」にて推計。なお、他地域との比較において、豊岡市は「宿泊サービス」「飲食サービス」「文化サービス／スポーツ・娯楽サービス」「小売」の４項目にて波及効果を推計しているため「旅客輸送サービス」等の波及効果が含まれていない点に留意。

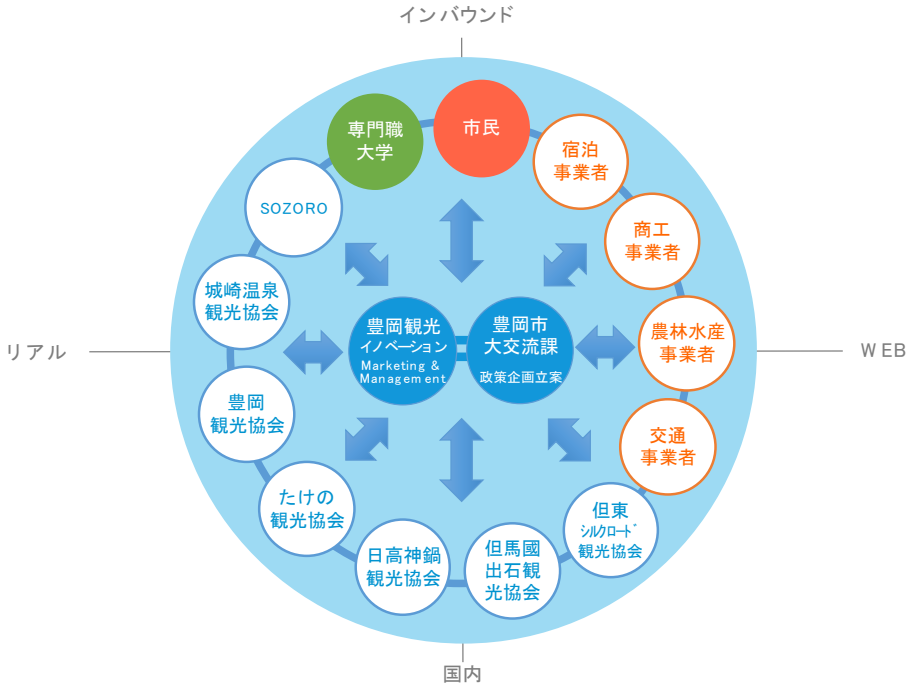
7　大交流ビジョンの実現に向けて

(1)　推進体制

これまで以下のような体制と活動領域で観光施策に取り組んできました。



これからは大交流モデルを推進していくために、豊岡観光イノベーション（TTI）を中心に市民や幅広い産業、関係団体と相互に連携しながら広義の観光に取組む必要があります。また、TTI と各観光協会の機能分担や将来的な組織のあり方についても検討します。



(2)　組織連携の推進

組織間の連携を「価値の創造」「価値の提供」「価値の向上」の３つの段階に分け整理します。

①　「価値の創造」の段階

TTI や豊岡市が調整役となり市民や民間事業者などの多様なアイデアや強みを引き出して、豊岡のローカルを来訪者に伝わる価値に変換します。

そして、連携者間のアウトプットとして、どのようなお客様に対して、豊岡市のどのような価値を、誰が主体となって、どのような手段を通して提供するのか等をまとめます。

②　「価値の提供」の段階

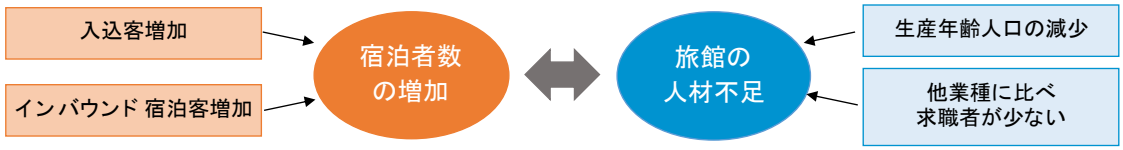
関係者が連携しながら来訪者の行動フェーズにあわせて最適なタイミング・手段で豊岡の魅力に関する情報を届けます。そして、来訪者が豊岡のローカルの価値を提供できる場を訪れたときに、市民や様々な事業者が、商品・サービス・おもてなしを提供します。

③　「価値の向上」の段階

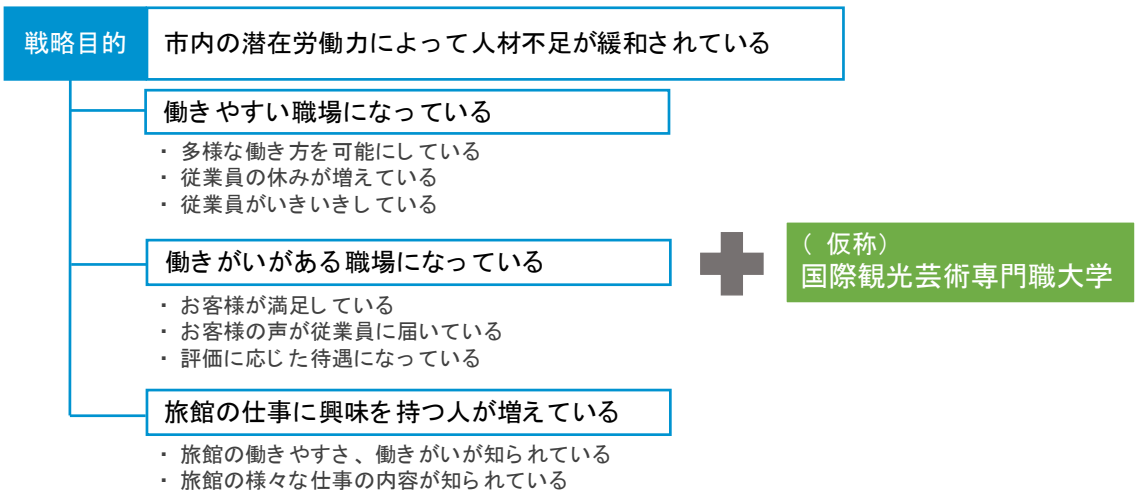
豊岡のローカルの価値をさらに向上させるために、それぞれの組織が提供実績に基づくデータや新たなアイデアを踏まえて議論を行い、次の施策の改善につなげます。

(3)　人材の確保・育成

観光産業においては人材不足という課題を抱えています。この課題を解消するために、豊岡市では 2017 年 11 月に策定した「豊岡市潜在労働力活用戦略」を実行するとともに、2021 年開学予定の県立専門職大学と連携することで、人材の確保・育成を進めます。



豊岡市潜在労働力活用戦略（ 抜粋）



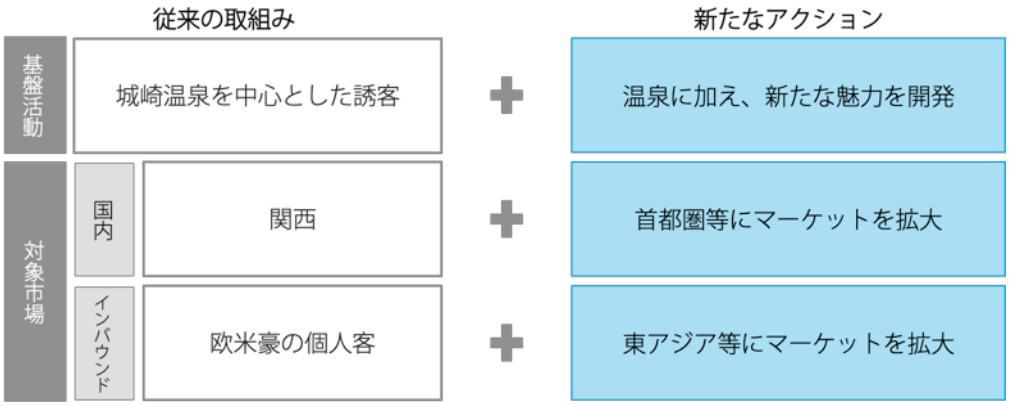
(4)　観光振興財源

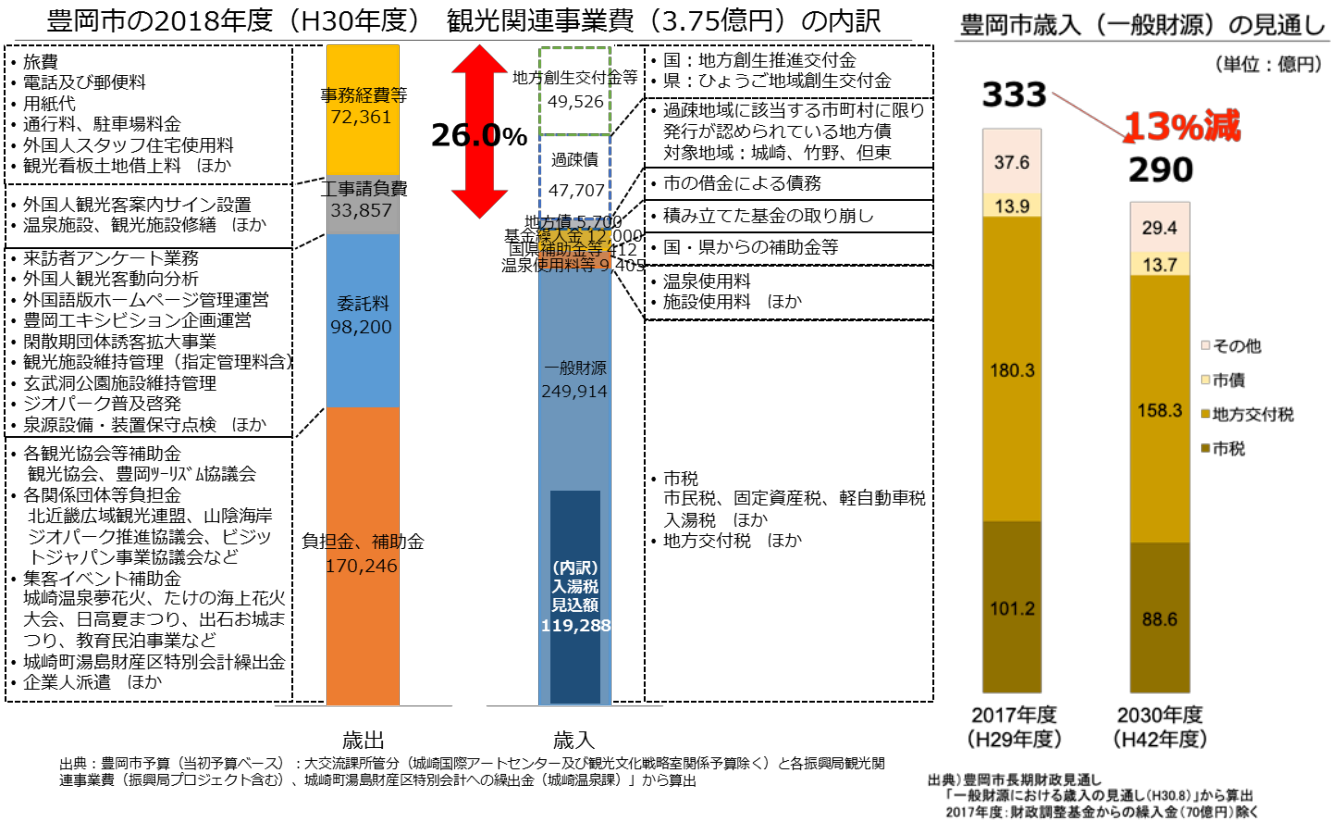
大交流ビジョンの目標を達成するためには従来の取り組みに加えて、新たなアクションが必要となります。そして、その新たなアクションを進めるには、新たな投資が不可欠となります。

一方で、豊岡市の財政は大変厳しい状況です。2018 年度の観光関連事業費のうち約 3 分の 1 は国や県からの交付金等を活用していますが、これらの交付金等は今後、廃止・縮小・見直しが予想されます。さらに、2030 年度までに豊岡市の歳入総額（一般財源ベース）は約 13%（約 43 億円）減少する見通しです。

豊岡市は歳入（一般財源）のうち、すでに観光振興財源として入湯税を課税しており、その額は宿泊者数に比例します。2017 年度は約 1 億 3000 万円を収入しており、城崎地域から収入が約 73.7%を占めています。

2017 年度の入湯税収入は、約 67%を観光事業や観光施設管理に充当しているほか、毎年 3000 万円を城崎町湯島財産区に繰り出しています。





来訪者に賦課する主な観光振興財源は以下の通りで、近年では、宿泊税を新たに賦課する例が多く見られます。

豊岡市の地域経済を牽引する観光産業の活性化には、戦略的、持続的な投資が必要です。

一方で、今後、観光関係事業費に充てられる予算は減少していくことが見込まれます。

このため、大交流ビジョンの実現に向けて、観光振興財源のあり方について検討を進めます。

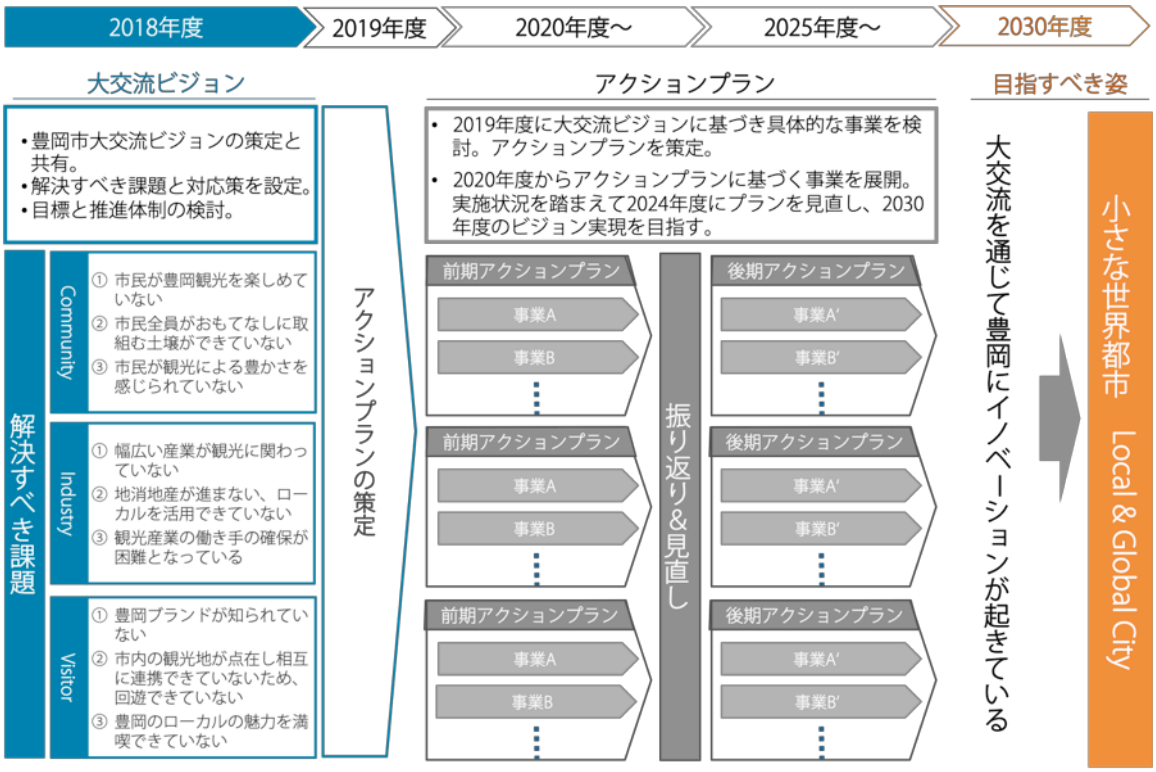
賦課対象	種別	名称		特徴	主な事例と税収額
来訪者	法定税	入湯税 （超過課税）		超過課税として導入し、引き上げた分を「観光振興、鉱泉源保護、消防施設、環境衛生施設等の整備」に充当 • 釧路市：一般の宿泊客1人1泊の入湯税を150円から250円に引き上げ。平成27年4月1日から税率変更。 • 美作市：旅館組合に入湯税収入の50%を還付（うち、15%は観光協会財源として充当）、入湯税は200円 • 鳥羽市：観光振興50%、鉱泉源保護30%、消防施策等10%、環境衛生施設10%、入湯税は150円	・釧路市　1.6億円（平成29年度決算） ※引き上げ効果は6,275万円 ・美作市　4,200万円（平成29年度決算） ※従来、入湯税150円、入場料50円だったものを入湯税として200円徴収 ・鳥羽市　1.7億円（平成29年度決算） ※使途比率の合意の基、平成19年4月から徴収開始
	法定外税	法定外普通税	別荘等所有税	• 昭和51年より実施。650円／㎡ • 別荘等の所有者が対象（旅館業法の許可を受けていない寮、保養所も対象）	静岡県熱海市　5億円
			歴史と文化の環境税	• 有料駐車場の利用者に対し徴収、全額基金化 • 二輪車50円、乗用車100円、マイクロバス300円、大型バス500円 • 基金運営委員会による予算、決算、提案	福岡県　太宰府市　0.8億円
		法定外目的税	宿泊税	• 東京都：ホテル、旅館が対象であり、宿泊料金が1万円未満は免除 • 大阪府：ホテル、旅館、簡易宿所が対象であり、宿泊料金が1万円未満は免除 • 京都府：ホテル、旅館、簡易宿所、民泊を含む全宿泊施設が対象であり、宿泊者全員が対象	東京都 21億円 大阪府7.6億円 京都市45.6億円（通年見通し。初年度は19億円）
			環境協力税	• 沖縄県：1回の入域につき100円（障害者、高校生以下は免除）、環境の美化、環境の保全及び観光施設の維持整備に充当 • 岐阜県（乗鞍環境保全税）：乗鞍鶴ヶ池駐車場の利用者（運転手）に対し徴収、乗鞍地域の自然環境の保全に係る施策に充当	沖縄県（伊是名・伊平屋・渡嘉敷・座間三） 岐阜県（乗鞍環境保全）0.1億円
			遊漁税	• 全国初の法定外目的税。環境の美化及び施設の整備費用として充当。 • 15,000円未満100円、15,000円以上200円　を徴収（1万円以下は免除）	山梨県富士河口湖町　0.1億円（H27年度）
事業者	分担金			地域再生エリアマネジメント 負担金制度（H30年6月施行）	

税	自治体名	施行日	賦課対象	課税対象行為	税率・適用条件	税収見込み	使途	課税免除条件
宿泊税	京都府 京都市	平成30年（2018年）10月1日	宿泊者（ホテル、旅館、簡易宿所のほか、違法民泊等も含む）	20,000円未満	200円	45.6億円	• 居住者にも来訪者にも京都の品格や魅力を実感できる取組の推進 • 入洛客の増加など、観光を取り巻く情勢の変化に対する受入環境の整備 • 京都の魅力の国内外への情報発信の強化	修学旅行生等
				20,000円以上50,000円未満	500円			
				50,000円以上	1,000円			
	石川県 金沢市	平成31年（2019年）4月1日予定	宿泊者（ホテル、旅館、簡易宿所のほか、民泊等も含む）	20,000円未満	200円	7.2億	• まちの個性に磨きをかける歴史・伝統・文化の振興 • 観光客の受入れ環境の充実 • 市民生活と調和した持続可能な観光の振興	特になし
				20,000円以上	500円			
	北海道 倶知安町	平成31年（2019年）11月1日予定	宿泊者（ホテル、旅館、簡易宿所のほか、民泊等も含む）	宿泊料金の2% ※定率制導入は全国初		2.6億～3.1億円	• 世界有数の山岳リゾートとしての発展を目指し、地域魅力向上・観光振興を図る施策に充当	修学旅行生等
入湯税	大分県 別府市	平成31年（2019年）4月1日予定	鉱泉浴場への入湯客（1人1日につき宿泊料金及び飲食料金が右記の者）	1,500円以上6,000円以下	現行据置（50～150円）	+1.5億円	• 基幹産業である観光産業を推進し、将来に向けての市民生活の維持・安定を図る • 行政と観光事業者等の観光分野に明るいメンバーにより観光施策に関する有効活用について協議し決定する予定 • 基金での管理	• 年齢12歳未満 • 共同浴場又は一般公衆浴場入浴者 • 修学旅行生 • その他市長が特に必要があると認めた者
				6,001円以上50,000円以下	250円（100円引上げ）			
				50,001円以上	500円（350円引上げ）			

(5)　大交流ビジョンの進め方

この大交流ビジョンに基づき目指すべき姿を実現するために、2019 年度に具体的なアクションプランを策定します。

これに基づき 2020 年度から事業を展開し、実施状況を踏まえながら 2024 年度にアクションプランの見直しを行い、2030 年度のビジョン実現を目指します。



(6)　大交流ビジョン策定委員会

この大交流ビジョンは、従来の観光の考え方から発想を大きく広げるために、有識者からのアドバイスを踏まえながら、市民や地域の事業者、観光協会や豊岡観光イノベーション（TTI）などとの議論したうえで策定しました。

（敬称略）

平田 オリザ	有限会社アゴラ企画
国枝 よしみ	大阪成蹊大学
山田　雄一	公益財団法人日本交通公社
倉成　英俊	株式会社電通
岡野　規子	楽天株式会社 コマースカンパニートラベル事業
田中　優子	株式会社リクルートライフスタイル じゃらんリサーチセンター
井垣　真紀	城崎温泉ステキ体験旅行社
樋口　正輝	アドバンス株式会社
昆野　彩	ＷＩＬＬＥＲ　ＴＲＡＩＮＳ株式会社（京都丹後鉄道）
西村 総一郎	株式会社西村屋
宮崎　裕紀	株式会社 MotherEarth
渋谷　順子	さらそば甚兵衛
岡田　俊二	暮らしマラソン
植村　賢仁	兵庫県鞄工業組合
青山　直也	ユメファーム
前野　文孝	豊岡市副市長

オブザーバー

オブザーバー	市内各観光協会
	豊岡市役所　各振興局地域振興課
	一般社団法人豊岡観光イノベーション
	城崎国際アートセンター館長　田口幹也

豊岡観光イノベーション（TTI：Toyooka Tourism Innovation）
2016 年 6 月 1 日に豊岡市、全但バス株式会社、WILLER 株式会社、株式会社但馬銀行、但馬信用金庫が観光による地域経済の活性化を進めるために設立した観光推進の専門機関です。
専門知識やノウハウを持つスタッフが、官民のネットワークを使いながら、「ローカルの磨きあげ」と「観光地マーケティング」により、世界から選ばれるディスティネーションを目指し活動しています。

豊岡市環境経済部大交流課

〒668-8666 豊岡市中央町 2 番 4 号
☎（0796）23-1111（代表）
（0796）21-9016（直通）
Email:travel@city.toyooka.lg.jp